



① 竜宮浜海水浴場 ② 志高での茶摘み ③ 田井の定置網漁 ④ 万願寺甘とうの出荷作業 ⑤ 成生漁港 ⑥ 上漆原の稲田 ⑦ 下東でのジャガイモ収穫体験



大浦地域活性化センター 加佐地域活性化センター 開設

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は4月から新たに開設した「地域活性化センター」についてお伝えします。



SDGs未来都市

大浦・加佐が生み出す魅力は、舞鶴の魅力

大浦・加佐地域は、豊かな農地、良好な漁場、発掘された縄文時代の石器や丸木舟に象徴される連続と深く深い歴史と文化など、人々が心豊かに暮らすことができる美しい自然と穏やかなコミュニティの地域です。

また、万願寺甘とうや舞鶴産のお茶、多様な魚介類など、生み出される農水産物は舞鶴の食の魅力そのものといっても過言ではありません。本市全体の人口のうち、大浦・加佐地域が占める人口は6.6割ほどですが、農家数は市内の約66割、漁協正組合員数は約59割

現在、大浦夢プロジェクトを立ち上げ、住んで良かったと思える10年後の大浦地域の創造に向けて活動しています。大浦地域全員に取ったアンケートを基に地域課題を抽出し、課題解決を目指して、形になったものもありますが、まだまだ道半ばです。今回、センターができたことは私たちにとって大変心強く、これまで検討していた案も実現しやすくなると思っています。地域が主体となりながら、センターと連携して今後も大浦を盛り上げていきます。

大浦振興協議会 会長 米田 利平さん



今はコロナもあり、イベントなどができていませんが、今後由良川を使ったイベントや各地域の祭りなどを復活させ、地域を盛り上げたいと考えています。加佐で育った人が加佐に住み続ける、また、出たとしても帰ってきたいと思えるような地域にしたいと思っていますので、センターと協力して一つ一つ着実に取り組んでいきたいです。センターには地域に密着して、親しみやすい、住民が気軽に立ち寄れるような体制・雰囲気期待します。

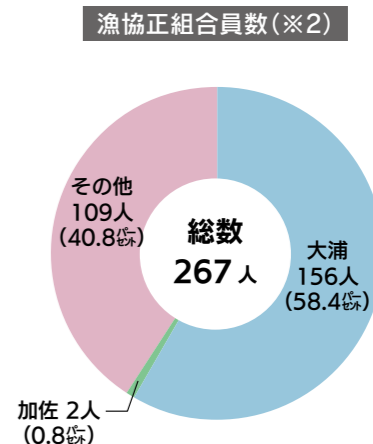
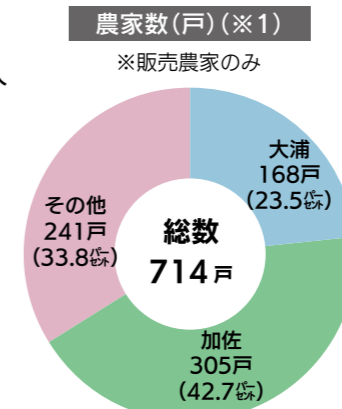
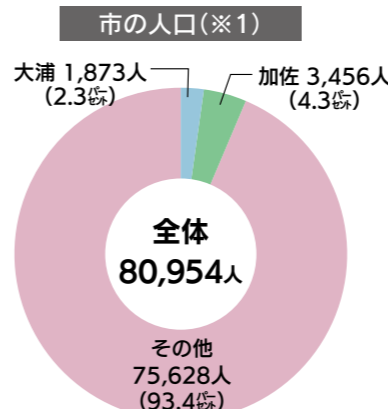
21 加佐活性化協議会 会長 奥野 忠平さん



を占めることから、舞鶴市の魅力の多くが大浦・加佐地域で生み出されていることが分かります。しかし、地域コミュニティを取り巻く環境は少子高齢化、人口減少など大きく変化しており、多くの地域課題が生じています。特にこの両地域では、人口減少による自治会や伝統行事存続の危機、有害鳥獣や度重なる自然災害による農業離れ、農水産業の担い手不足が生じています。そんな中、地域の自治協議会では、移住・定住促進や高齢者の暮らしの支援、産業の振興など、持続可能な地域づくりに向けて住民自ら活動されています。市では、令和4年度から両地域に専属の職員を配置して「地域活性化センター」を開設、地域の取り組みを応援し課題解決を進めていきます。

一人ひとりが輝き、人がつながり、一人ひとりが輝く地域へ

持続可能な地域を目指して、住民、行政、関係機関がそれぞれの立場で役割分担し、連携協力して解決できる仕組みづくりを進めます。さらに、地域づくりは人づくりであることを重視し、地域活性化センターを拠点と位置付け、住民一人ひとりが輝き、地域で活躍できるよう施策を展開していきます。



出典：※1 令和2年版 舞鶴市統計書
※2 京都府漁協調べ(令和3年1月1日時点)

地域活性化センターの事業



移住定住促進事業
空き家の活用や移住希望者の伴走支援、移住後のフォロー、Uターンの促進などを地域と連携して進めます。



公民館事業
各世代がつながり学べる講座やイベントを通して、地域住民の自己実現と交流の場をつくりまします。



農漁村ビジネス支援事業
地域の環境や資源を生かし、農水産物の6次産業化や観光振興、新しいなりわいづくりに支援します。



住民自治支援事業
地域課題の解決に向けて、地域の皆さんと知恵を出し合い、持続可能な地域を目指します。

※4つの事業のほか住民票発行などの行政窓口業務を実施。また、センターと本庁をオンラインで結び、農林水産関係の補助申請相談ができるサテライト窓口を設置予定